

山陽山陰の旅 2022



2022年5月

旅のチカラ研究所 植木圭二

山陽地方と山陰地方、それらの一部を妻と3泊4日で旅行会社のパッケージツアーで巡ってきた。そこで体験した瀬戸内海の島々、芸術、神社など興味深い旅になったのでここで紹介したい。

第一章 山陽の旅

■倉敷の街

私たち夫婦は羽田空港から飛行機で岡山空港の降り立ち、直ぐにバスに乗って倉敷市の市街地にやって来た。バスにはツアー参加者38人が乗っており、久しぶりの旅行という人も多く、少し緊張はあるものの乗客は皆生き生きとしているように感じる。

バスを今宵の宿「倉敷アイビースクエア」で降り、いきなり自由行動になる。

倉敷の街は綺麗だ。その中でも特に美観地区は趣がある。全国で似たような街並みを見る機会も多いが、ここはピカイチかもしれない。私たちの後ろから歩いて来た人もこの美観地区に足を踏み入れた途端に「凄い！」と大きな声をあげて驚いている。



【倉敷の美観地区】

美観地区の中に有名な大原美術館がある。地元実業家の大原孫三郎が出資し、画家の児島虎次郎がヨーロッパで買い付けた絵画を中心に展示している。そのため展示品は洋画と児島が描いた絵画が中心になっており、個人の美術館としては群をぬいている。

さらに東西の狭間の文化の源流にも迫ろうという大原孫三郎の思いもあって、中国やエジプトの美術品もある。

倉敷駅の近くには“ぶっかけうどん”を日本で最初に始めた店があるというので、美観地区から10分くらい歩いて行ってみる。

この時間帯はサービスタイムで大盛が並盛の価格になりなので、大盛を注文する。ネギ、天かす、海苔、うずらの生卵が乗っており、豪快にかき混ぜて食べるという食べ方が掲示してある。凄い量だが、既に午後3時を回っており、昼食抜きの状態だったので何とか平らげる。

味は瀬戸内海の対岸の讃岐うどんに近い。コシは讃岐うどんほど強くない。



【「ふるいち」のぶっかけうどん】

今回私たちが使ったツアーは阪急交通社の一般的なトラピックスのブランドではなく、それよりランクが上のクリスタルハートというブランドで、それなりに高い。それなのに昼食は付いておらず、初日に至っては夕食も付いていない。クルスタルハートなのに何をケチっているのか、企画担当者の意図が理解できない。

倉敷アイビースクエアに戻って来る。この施設はかつて倉敷紡績所（現クラブウ）発祥の工場で、明治時代の雰囲気の色濃く残している。お洒落な施設で、宿泊だけでなく博物館、体験施設、喫茶、レストラン、ショップをもつ複合観光施設になっている。



【アイビースクエアのフロント・ロビー 中庭と回廊】

私たちが泊まるのはツインルームの洋室だが、部屋はかなり狭く、2人で泊まるには限界の広さかもしれない。しかしそれなりに機能的な造りになっており、洗面所ではなく部屋の片隅に洗面台がある。確か私が最近泊まった新しいホテルも同じような構造だったので、最近のトレンドかもしれない。

大浴場には湯船が3つある。しかし窓がなく外は見えず、閉塞感がある。これだけ洒落た造りの施設なのに全く意味不明だ。

夕食は遅い昼食の大盛ぶっかけうどんのお陰であまり食べる必要もない。空腹ならば、あるいは雨が降っていなければ市内の料理屋で瀬戸内海的美食を堪能していただろう。

朝食は豪華でバラ寿司、ままかり、鯖のたたきなどの地元も食材が多く並んでいる。ビュッフェスタイルで食べ放題になっている。レストラン入口には1980円と書かれているから結構な値段になっている。この朝食はさすがにツアー代金に含まれている。

■三原に行く

本日は倉敷駅まで15分歩くという行程から始まる。私のように歩き大好きなアルチュウ（歩き中毒）の人間ならばまだしも、年配者も多いのに信じがたい行程になっている。これにまた企画担当者の意図が理解できない。それでもまだ旅は始まったばかりで全員元気に歩いている。

倉敷駅に来た理由はJR西日本が運行する観光列車「La Malle de Bois（ラ・マル・デ・ボア）」に乗るため、この列車が今回のツアーの一つの目玉になっている。

私たちがホームで待っていると列車が入って来る。その到着シーンから既に“観光列車ショー”は始まっているようで、駅員はそのシーンに合わせて写真撮影のサービスなどを行っている。

列車に乗り込み、車内を見渡す。この列車は風光明媚な場所を走るので、車内は窓を向いて座るスタンド・バー風の座席と、前向きの2座席が並んでいる。スタンド・バー風の座席の上の棚には旅の本が20冊くらいさりげなく置かれている。ビールや軽食を売るスタンドがあって、売り子の女性が2人もいる。専用のスーツケース置き場、自転車置き場もある。この列車はもちろん座席指定でグリーン車になっている。



【La Malle de Bois の車内】

列車が発車すると沿線の観光名所や街の歴史の紹介や、列車の説明などが社内放送される。その中で La Malle de Bois とは「木でできた旅行カバン」という意味だと説明してくれる。どおりでそのような装飾が見受けられる。

駅に停まれば駅員たちが横断幕を持って歓迎してくれ、車内では車掌がプレートを持って記念撮影をするというサービスまでしてくれる。

三原駅を降りて昼食になる。もちろん自由昼食で、ツアー客たちは街の中に散って行く。

添乗員が三原はタコが有名だと教えてくれていたので、私たちはタコを食べられる店を探してゆっくりと歩き始める。するとタコの唐揚げやタコ飯を売る小さな店がある。人気店らしく、店の前には人が列をなしている。それも地元民らしき人々が多く並んでいるので、きっと美味しいだろうと思って列の最後尾に並ぶ。前にいる主婦らしき人に評判を聞くと、彼女は「美味くて安いですよ。特にタコ飯は良いですね」と言っている。私たちはそのアドバイスのどおりに 400 円のタコ飯を 2 個買って、店の前のベンチに腰掛け食べる。これがなかなかいける。

美味しいタコ飯を食した結果かもしれないが、このツアーの企画担当者に少しでも感謝したい気持ちが目覚める。クリスタルハートで 1 個 400 円のタコ飯が出てきたのでは、これもまた興ざめだろう。

■瀬戸内海の島

三原駅に集合してから三原港まで歩いていく。ここも 15 分くらいの行程になっているが、今朝の倉敷同様、その程度の距離をタクシーやバスを使ってはむしろ大変で、駅から港までの港町ならではの街並みを見ながら歩くというのは悪くはないのかもしれない。

三原港からは「SEA SPICA (シースピカ)」というクルーザーに乗る。双胴船で全長 25.7m、90 トン、定員 90 名と比較的小型で、濃いマリンプルーの塗装のお洒落なクルーザーだ。この船に乗って三原から広島までの瀬戸内海の小さな島々を巡る。



【小型クルーザー SEA SPICA】

SEA SPICA はまず大久野島に上陸する。上陸時間は 40 分間、島内にバスも走っているが私たちは歩いて島内を回る。

この島の特徴は 3 つあって、ウサギがたくさんいる島、旧日本陸軍の毒ガス工場があった島、南国リゾートを楽しめる国民休暇村がある島だ。その三者三様の特徴はそれぞれ独立しているが、融合しているようにも感じる。つまりどれか一つに着目して訪島しても十分に楽しめ、複合的に楽しめばさらに興味深い島になる。例えば、毒ガス工場の跡地が戦後 80 年も経過しているのに未だに色濃く残っている中で、国民休暇村はその施設を上手く利用して建っている。それに加えてたくさんのウサギと触れ合うことで癒しになる。老若男女問わずに楽しめる島かもしれない。



【大久野島の国民休暇村の海岸】



【大久野島の毒ガス貯蔵庫跡】

次は大崎下島の御手洗地区に上陸する。この地区はかつて北前船で繁栄したので、古い家々があり、それらが独自の街並みを作っている。昨日の倉敷の美観地区にも似ているが、倉敷は意図的に作られた街並みなのに対して、こちらは昔のままの街並み、観光を生業とすることなく人々が今も普通の暮らしをしている。

海辺に小さな宿屋があり、2 階の部屋から瀬戸内海をぼんやりと眺めながらくつろいでいる宿泊客がいる。その光景を見て、私は何となくホッとする。



【御手洗地区の旅館】

御手洗天満宮の境内で面白い碑を見つける。「中村春吉の碑」で、彼は日本で初めて自転車で世界一周したという人物だ。1902年から1年半かけて一周したという。今でこそ自転車の世界一周はそんなに珍しくはないが、当時は複数の国に渡航することが出来たのだろうか、いや、昔だからこそ何も規制がなかったのかもしれない。この情報を自転車好きの私の友人たちにLINEで写真を送った。彼らからの返信は、そんな昔に信じられないというものだった。



【中村春吉の碑（写真は合成）】

呉の港に近づく。ご存知のように呉は昔も今も軍港で、自衛隊の艦艇がたくさん集結している。その中でもひと際目を引くのは、真っ黒い船体の潜水艦で10隻以上停泊している。それはまるで黒い鯨が休んでいるかのようで、かなり異様な光景だ。そもそも潜水艦というのは海面下に潜って隠密行動をとることが役目で、白日の元にその存在をさらすことは極めて少ない。

SEA SPICA から身を乗り出して写真撮影をしている人は、口々に「何これ、凄いね」という言葉を連発している。



【呉の海上自衛隊基地 潜水艦】

■豪華ホテルに泊まる

本日の宿は「広島グランドプリンスホテル」、かなり豪華なホテルだ。このホテルは宇品島という島にあって、それゆえホテル専用の栈橋があり、SEA SPICAはその栈橋に着いた。島には広島三角州の端から橋も架かっているのでも車で渡ることも出来るが、船で乗り付けるという方が明らかに格好いい。

私は、この船での乗り付けを全く予想もしておらず、感動する。やはり旅は“偶然と感動”だろう。人は予期しなかったことに遭遇すると感動が大きい。反対に期待し過ぎて、裏切られた場合は落胆する。私はこれを“期待と落胆”と称している。

ホテルは島の先端部にあり 3 方を海に囲われており、どの部屋からも海が見えるように三角柱の形をしている。見晴らしを考慮して 23 階建ての高層ビルになっている。ホテルに入ると三角形の 1 階フロアは全てエントランスのホールで、真ん中に大きな円形の池が配置され、その池を囲むようにフロントや売店がある。



【広島グランドプリンスホテルのロビー】

驚いたのはその一角に映画「ドライブマイカー」のアカデミー賞受賞記念展示がある。あるシーンがこのホテルの最上階のラウンジで撮影がされて、その写真も飾られている。そう言えば本日見てきた大崎下島の御手洗地区の写真も多くある。この映画は是非見たいと妻と会話する。



【ドライブマイカーのアカデミー賞受賞記念展示】

大浴場もあり、そこからの展望や設備を期待したが、別料金 2150 円が必要になる。さすがに高級ホテルなので高価だが、残念ながらこれがツアー代金にこの費用は入っていない。

昨日の倉敷アイビースクエアの大浴場に落胆し、ここでさらに落胆する。

こういうのがまさしく「期待と落胆」そのものなのだろう。またしても企画担当者の考えが理解できない。

ホテルのレストランの夕食は洋食のコース料理になっている。若い女性スタッフが案内してくれてテーブルに着く。別の女性スタッフがドリンクの注文に来て、間もなくしてまたさらに別の女性スタッフが前菜をサーブしてくれる。一体ここには何人の女性スタッフがいるのだろうか。高級ホテルのなせる業だろう。

料理の内容は予想していたとおりで、それ以上でもそれ以下でもない。従って感動も落胆もない。レストラン出口にメニューが置かれており、本日私たちが食べたコース料理は 6000 円だったことを知る。

■世界遺産「厳島神社」

旅の 3 日目が始まる。昨日着いたホテルの栈橋から世界遺産「厳島神社」のある宮島に渡る高速船に乗る。この船は一般客も乗る乗り合い船で、日曜日ということもあって結構混んでいる。私の近くに座った人たちは話の内容から、厳島神社で行われる結婚式に出席すると思われる親戚一同らしい。

宮島の栈橋に到着すると、「だいこん屋」の若い女性従業員が迎えに来てくれている。だいこん屋は厳島神社の近くにあるもみじ饅頭の店だが、阪急交通社がこの店をよく使っているのだろう。店の従業員と添乗員の連携が上手く取れている。栈橋からだいこん屋まで歩いて移動する。普通に歩けば 10 分位だが、杖をついている人や車椅子の人もいるのでその倍くらいかかる。

ツアーの行程表では、厳島神社は専門のガイドが案内するとなっており、私はここでガイドと合流するのかと思っていたが、そうではなかった。ここに連れて来てくれただいこん屋の女性従業員がガイドをしてくれるというから驚いてしまう。

この店は、もみじ饅頭を作って売って、土産物も売って、2 階の食事処で昼食も出して、そして観光ガイドもするという。これは結構珍しいことだ。

私がシステムエンジニアをしていた頃に流行っていた業界用語で“ワンストップソリューション”という言葉があって、その意味は全部まとめて問題を解決するというサービスを意味しているが、それをこの店は実践している。

これは意外にこれからの観光産業のひとつの方向性なのかもしれないと私は思った。だいこん屋の場合はガイドをする従業員に世界遺産検定の資格でも取らせれば、お客だけでなく本人にもメリットがあるだろう。

さらにもう一步踏み込んで、宿泊まで対応できれば完璧だ。だいこん屋が旅館業にまで手を広げられないのならば、どこかの宿と提携することも有りだろう。

ガイドはいろいろなことを教えてくれる。観光雑学とでもいうようなもので、私が世界遺産検定で学んだ知識とは全く異なるものだが、それらはそれなりに思い出に残るものだ。

世界遺産のモニュメントの穴からは大鳥居を見ることが出来るとか、厳島神社の国宝の舞台上で舞うには10万円かかるとか、出口の近くにある大願寺にある錦帯橋の模型は明治時代にパリ万博に出展したものだとか、興味深い。



【世界遺産モニュメント穴から大鳥居が見える（写真は合成）】



【大願寺の錦帯橋の模型】

ガイド付きツアーは約30分で終了し自由行動になる。本日も昼食は付いていない。しかしここには牡蠣焼き、お好み焼きなど名物の店が多く並んでおり、ある意味自由昼食の方が良いのかもしれない。企画担当者の思惑がうっすら理解できるような気持ちになる。

■おにぎらず

宮島から船で宮島口に渡り、旅行会社がチャーターした観光バスの旅になる。バスは高速道路に入り、そしてPAに立ち寄る。

添乗員の話ではこの辺りは高速道路のPAと一般の道の駅を兼ねることが多いという。道の駅で普通に売っている特産品や農作物がある。スッポン、鹿肉、猪肉、山菜巻きなどあまり都会では目にしないもの、そして「おにぎらず」が目にとまる。

私は名前だけ聞いたことがあるが、初めて本物を目にした。そのことを妻に言うと、こう教えてくれる。

おにぎらずは“握らないおにぎり”で、30年くらい前に週刊モーニングのクッキングパパで紹介された。簡単に言えばご飯のサンドイッチ、だから握っていない。ご飯の外側は海苔がついているので手で持って食べることができる。

私は、おにぎらずを買って食べようかと思ったが、今夜の宿は超豪華の5つ星の宿ということで温泉も料理も私は大いに期待している。ここはぐっと我慢をする。



【おにぎらず】

第二章 山陰の旅

■玉造温泉の5つ星の宿

バスは中国山地を越えて日本海側の山陰地方に出てくる。車窓に宍道湖を見ながら今宵の宿の玉造温泉「佳翠苑 皆実（かすいえん みなみ）」に到着する。エントランス、ロビー、部屋も全て素晴らしい。



【ロビーと庭園】

この宿は5つ星の宿だと、ツアーの行程表に書かれているが、この“5つ星の宿”とは一体何だろうか。

レストラン業界のミシュランの3つ星は、タイヤメーカーのミシュランが自動車そしてタイヤの拡販を狙ってレストランを紹介することで始まったが、ホテル業界の場合はどうなのか。

調べてみると、外国の場合は民間会社や各国の観光機関など様々な格付けがあるようで、日本の場合は旅行会社や出版会社などが独自に決めている。

そのひとつは観光経済新聞社で、年間230宿ほど5つ星の宿を認定しており、毎年認定を受けている宿も多いので累計で380宿くらいある。普通に考えれば1回でも認定されれば、そのまま名乗るから徐々に増えていくのだろう。

これを後押ししているのが観光庁だ。というのは日本の実情はインバウンド市場が拡大して外国からの超富裕層が増えても、実は対応力が不足している。特に地方は顕著で、そこで5つ星の宿の増加で地域の活性化に結び付けるようとしている。



【佳翠苑 皆実の部屋 右奥の小さな部屋が化粧部屋らしい】

部屋に入ると窓際に置かれた応援セットの隣に1畳ほどの小部屋が目にとまる。私はこれが最初何の部屋なのか分からなかった。大きな鏡が置かれて自然光が充分に入るようになっており、妻は化粧部屋だと言っている。そう聞いて私もそんな気がするが、それにしてもこのような部屋は初めて見る。

宿の露天風呂に入る。湯船の周囲も底も大きな石でできており、特に底の石は真っ平ではなく段差が付いているから湯に浸かる深さが自由に選べる。玉造温泉は美肌効果を売りにしているが、それらの石まで美肌効果によってスベスベになっている。

食事も5つ星レベルの内容だ。ただ珍しいのは、女将ではなく宿の宴会担当の若い男性社員が出て来て挨拶をし始める。そしてその時に配膳していた3名の女性授業員の名前を出して紹介する。これには配膳係の彼女たちは気合が入るだろう。

部屋に戻ると布団が敷かれており、枕元には行灯照明が点灯している。それはよくあることだが、その隣に非常時のための懐中電灯が置かれている。さりげなく置かれてはいるが「ここに置いておきますよ」と気付かせるようにもなっているのはさすがだ。これには正直驚いた。

■美肌の湯と温泉街

玉造温泉は美肌効果を宣伝している。温泉ソムリエの私はこれについて多少の疑問を感じる。温泉成分書を見る限りでは、泉質は特筆するところがないからだ。

それで美肌効果について宿のスタッフに聞いてみると、宿の近くに「姫ラボ」という店があるのでそこで聞いてみたらと意外にそっけない。温泉街を散策するついでにその姫ラボに立ち寄ると、姫ラボは石鹸を売っている店だがスタッフ全員が温泉ソムリエの資格を持っているというから美肌効果はまんざら嘘ではないらしい。

おそらくは温泉の泉質というよりも温泉の鮮度なのかもしれない。温泉の鮮度とは、私が温泉ソムリエの資格を取る時に知ったものだ。

金属が酸化して錆びるように人間の皮膚も酸化し老化する。一方で酸化とは逆の還元は老化を抑制し若返り効果がある。その還元効果が期待できるのが温泉で、それは地中深く生成されるために酸素が不足した還元状態で生成される。そして地上に出て大気に触れると徐々に酸化が始まる。つまり鮮度が落ちる。その要因は大気に触れる時間や加熱循環処理などである。逆に鮮度を保つには掛け流しの湯で源泉から近いことなどになる。玉造温泉は湧出温度が高く、かけ流し、そして源泉が近いからだろう。

温泉街は川を挟んで両岸に約 1km 続いており、綺麗に整備されている。川岸には足湯もあって、足を浸けてのんびりできる。



【玉造温泉街を流れる川の岸にある足湯】

私たちの泊まっている宿の隣には星野リゾートがあるなど大きなホテルや旅館はあるが、昔ながらの小さな宿はほとんど見当たらない。

出雲といえば神話だ。温泉街の至る所には神話のオブジェがある。このオブジェを見て歩くだけでも、何となく出雲に来たと感じる。



【玉造温泉街を流れる川を背景に神話のオブジェ】

■足立美術館

旅の最終日は島根県から県境をまたいで鳥取県に入る。といっても直ぐ近くの鳥取県安来市にある有名な「足立美術館」の見学がメイン行事になっている。

足立美術館について今さら書くこともないが、「名園と横山大観コレクション」つまり日本庭園と日本画の調和が創設以来の基本方針だという。日本人のみならず外国人も誰でもが親しみやすい日本庭園の感動をもって横山大観はじめ日本画家の作品に接してもらい日本画の魅力を理解してもらいたいというコンセプトだという。

それゆえ庭園が素晴らしい。米国の日本庭園専門誌が選ぶ日本庭園ランキングで、何と 2003 年から 19 年間連続の日本一になっている。審査対象は 1000 カ所というから半端ではない。ちなみに気になる 2 位以下は、桂離宮（京都）、山本亭（東京）、皆実館（鳥取）、京都平安ホテル（京都）と続いている。

これだけの庭園なので手入れが大変だ。スタッフから聞いた話では、赤松 800 本は独特の赤い色を出すために皮をむくなど特別な作業をされており、芸術員や事務方など 50 人の職員全員が毎朝開館前に 1 時間かけて掃除をしているという。



【足立美術館の庭園】

本日も昼食は付いていない。食事よりも足立美術館を堪能したいというお客の気持ちを汲んでいるのかもしれない。美術館にずっといても飽きてしまうお客は隣接する安来節演芸館で昼食や安来節を見ることがもできる。

しかし館内には世界一の日本庭園を見ながら昼食を食べることができるレストランや喫茶店もある。そのレストランを覗いて見たが、これはなかなかお勧めだ。

ただ私たち夫婦はひたすら作品鑑賞をしていた。

■大国主の社

バスは出雲大社にやって来る。私は出雲大社の参拝は今回で3回目になるが、その2回はかなり昔のことなので、今はだいぶ印象が違い、綺麗に整備されている。

参道を歩いていると「山下達郎・まりや」と書かれている提灯がある。

歌手の山下達郎と竹内まりや夫妻が奉納したものだが、竹内まりやは地元の出雲出身で彼女の実家の竹野屋旅館は出雲大社の鳥居から100メートルほどの参道にある。開業以来140年になる格式ある老舗旅館でかつては繁盛したが、その後は廃業の危機に陥り、それでも何とか復活した。現在は竹内まりやがオーナーになっているというから、復活の資金は彼女が出したのかもしれない。



【参道の提灯】

少し青く黒ずんだ銅の大きな鳥居をくぐると威風堂々とした拝殿が私たちを迎えてくれる。この拝殿のしめ縄が有名なので、ここを本殿と勘違いする人も多いが、この立派な拝殿の背後にはさらに大きな本殿が控えている。

出雲大社はとにかく大きい、それはこの神社が特別な神社だということを物語っている。

私はその特別な神社に祀られている大国主に想いを馳せながら参拝した。

記紀（古事記と日本書紀）によれば、大国主は日本を創った土着の神とされている。ところが“天孫降臨”で高天原に降り立った天照大御神から“国譲り”を要請され、大国主はしぶしぶこれを受け入れ“現世”の日本を明け渡して“あの世”の主になった。国譲りという平和的な表現にしているが、実態は譲ったのではなく武力で奪い取られたのだろう。それは普通に考えれば分かることだが、記紀は時の権力者が編さんしたので都合のよい表現になっている。

出雲大社はその大国主を祀るために建てられたものなので、極めて特別の神社だ。それゆえ参拝の作法も特別で、普通の神社は二礼二拍手一礼だが、出雲大社は二礼四拍手一礼で参拝する。

10月は日本中の神々が出雲に集まるから神が居なくなるので神無月と呼び、出雲だけは神有月と呼ぶのは有名な話だが、神々が何のために出雲に集まるのかまで言及がない。出雲大社の拝殿に立って、大国主の気持ちになってその理由を考えると、面白い仮説が私の頭の中に浮かぶ。神々が集まる理由は大国主を監視するためで、しかしその中には大国主の味方もいて、ひそかに日本奪還を企てているというものだ。



【拝殿の正面】



【拝殿の背後にある斜め前から見た本殿】

■出雲そば

出雲大社を出ると既に3時を過ぎている。足立美術館では昼食を食べずに見て回っていたので、ここで出雲そばを食することにする。

出雲そばは日本三大蕎麦の一つで、ちなみに他の二つは岩手のわんこそば、長野の戸隠そばだという。

その特徴は、通常そば粉を作る時は殻をむいたそばの実を一番粉から四番粉に分類する。そばの実の中心に近いほど白くなり、どの部分を使うかによってそばの種類が変わる。よく耳にする更科そばは白い部分の一番粉で打ったそばになる。ところが出雲そばは、粉の選別をせず殻の付いたそばの実をそのまま挽くので、色は黒っぽくなり栄養価と香りが高い。出雲そばは冷たい割子そばと、温かい釜揚げそばがあり、どちらも食べる時にそばつゆをかけて食べるようになっている。



【出雲大社の横の店の出雲そば】

私の目の前に出てきた釜揚げそばもやや黒い麺になっており、汁も濃い、具は海苔と小ネギと紅葉おろしとシンプルだ。

味を期待して食したが、その期待ほどではなかった。ただし落胆までは行かない。

第三章 旅を終えて

■ツアーを振り返って

今回巡った観光名所は大きな神社が2つ、美術館が2つ、古い街並みが2つ、瀬戸内海の小さな2つの島にも上陸した。それらは単独でもなかなか見応えあるが、2つを対比するのも面白い。

そしてそれらの見学・観光が基本的には自由行動だったこともかなり特徴的だ。自由行動にすると目的を持って参加した人や予備知識のある人には好評だが、そうでない人にとってはつまらなかったという感想になるかもしれない。

移動手段としてクルーザーと観光列車は個人旅行では組み込むのが難しいのでツアーならではの企画かもしれない。

そして今回のパッケージツアーは昼食が全く付いておらず、初日は夕食も付かなかった。高いツアーなのにそこまでケチってどうするのかなどと最初思ったが、時間に限りがあり、食事の好みもあって難しい問題だろう。旅行会社の企画担当者がそれを思い切ってなくし自由昼食にしたのは多少なりとも勇気が必要だったかもしれない。

結果的には私たち夫婦にとっては見学や鑑賞の時間がとれて良かったが、人によっては文句の一つも言いたくなるだろう。

確かにパッケージツアーの定義「旅行社が行う運賃・宿泊費・食事等一切込みの団体観光旅行」からすると少し外れている。ただ未開地の海外旅行ならいざ知らず、国内旅行ではある程度の自由度も欲しい。このように自由度があるツアーは今後のトレンドになる可能性が高いと私は思う。

徒歩による自由見学も多く、船と鉄道を使用したので 10 分～20 分の徒歩移動も多かった。それは高齢者や足の悪い方には辛かったかもしれない。

私が過去に参加したツアーでは、このような対策としてタクシーや路線バスを利用したのもあったが、団体旅行の場合はタクシー分乗や路線バスは迷子などのリスクが高くなる。特に今回のように 38 人を 1 人の添乗員で引率するには無理がある。

旅行社側の対策としては、事前にその旨を周知させる以外ないだろう。一方で参加者はどのくらい歩くかを旅行社に事前に聞くことをおすすめしたい。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひよい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。

評価の基準は、5 は驚き感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、そして 1 は失望落胆としている。

玉造温泉「佳翠苑皆実」は泉質 4、風呂 5、料理 4、コスパ 3、サービス 4、建物・部屋 5、立地環境 4、総合点 4.14 になった。

料金は旅行社が支払っているなので、コスパは宿の HP から料金を調べて評価した。

湧出温度 65.3℃、pH-、泉質はナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物温泉（低張性弱アルカリ高温泉）、温泉成分書に pH の記載が無く、弱アルカリ性しか分からない。

■旅の記録

旅行は 2022 年 5 月 13 日（金）～5 月 16 日（月）で実施され、行程を以下に記す。本文の順番と異なる部分があるが、以下の記録が実際のものになる。

- ・ 1 日目 ツアー集合時間 9 時 35 分に合わせて 7 時過ぎ自宅を出て 8 時 50 分羽田空港到着、羽田空港で朝食、羽田空港 10 時 25 分 JAL 便に乗り岡山空港 11 時 40 分着岡山空港から宿泊する「倉敷アイビースクエア」までチャーターバスで移動、荷物を宿に預けて岡山の市街地、特に美観地区を散策し、昼食兼夕食
- ・ 2 日目 10 時に宿をチェックアウトし、倉敷駅まで約 15 分徒歩にて移動
10 時 40 分倉敷発 12 時 03 分三原着の「La Malle de Bois（ラ・マル・デ・ボア）」に乗車、三原駅付近で昼食、三原港まで約 10 分徒歩にて移動し
SEA SPICA（シースピカ）に乗船、三原港 13 時 30 分出航、大久野島 14 時 10 分寄港 14 時 40 分出港、大崎下島の御手洗港 15 時 25 分寄港 16 時 25 分出港、グランドプリンスホテル広島前棧橋 17 時 57 分寄港「グランドプリンスホテル広島」に宿泊

- ・ 3 日目 9 時 15 分宿を出発、ホテル前棧橋から 9 時 31 分高速船に乗り 9 時 57 分宮島着
13 時 25 分宮島棧橋で渡船の乗り、13 時 35 分宮島口下船、
13 時 50 分バスに乗り、16 時 30 分玉造温泉到着
「佳翠苑皆実 (かすいえん みなみ)」 宿泊
- ・ 4 日目 10 時 10 分宿を出発し、バスにて移動し 11 時に足立美術館に到着し自由見学
13 時 30 分に足立美術館を出発し、15 時に出雲大社到着、
自由参拝、昼食兼夕食の出雲そばを食べて 16 時 15 分出発、
19 時 15 分出雲縁結び空港発、20 時 40 分羽田空港着、自宅近くのホテル着

費用は 2 人で約 22 万円、1 人では約 11 万円になった。内訳を以下に示す。

- ・ 旅行費 阪急交通社に支払った費用 200000 円 (2 人分)
- ・ 交通費 羽田空港までの往復交通費 約 1200 円 (1 人分は約 600 円)
- ・ その他 昼食×4 (初日と最終日は夕食兼用) 約 10000 円 (2 人分)
夕食時の飲み物、持ち込んだ飲み物 約 4000 円 (2 人分)
土産物費用 約 2000 円
大原美術館入館料 3000 円 (2 人分)